

次世代農業サミット

島田馨子@ゆうゆう農場
(神奈川県相模原市)

令和3年7月16日



今日のお話

- ①自己紹介
- ②ゆうゆう農場の農業
- ③今後の農業

【①自己紹介】

株式会社ゆうゆう農場

マーケティングマネージャー

島田 馨子(しまだ けいこ)

2015年8月入社(就農6年目)

担当 営業、経理、総務、法務、人事

作付け計画、仕入れ管理、シフト管理

生産、収穫、パッキング



経歴

1977年 東京都生まれ 現在43歳

2000年 津田塾大学 英文科卒業

2000年～ 印刷営業

受注、印刷手配、納期管理

2005年～ 広告代理店

販促品やWEB・カタログ等の企画制作、
イベント運営

2010年～ 会計事務所

申告書作成、顧客対応、スタッフ育成

【②ゆうゆう農場の農業】

平成21年設立 農業生産法人

合計約3町歩

ハウス3棟(うち、いちご狩り1棟 2020年～)

露地栽培圃場13か所

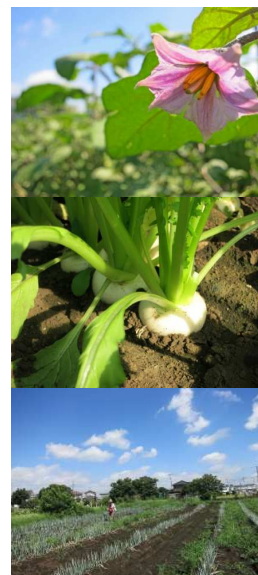
年商5000万円

社員6名＋パート＆ボランティア約15名

近隣スーパー8店の生産者持込コーナーに出荷

●売り場に常に商品があるように、途切れず収穫でき、
ほかとの競合を避けられるような作付を考慮
(1シーズン10～15品目)

●農業・化学肥料をできるだけ減らし、美味しく安心な
野菜作りを目指す。



【③今後の農業】

農業は、、、
むずかしい！
でも、**おもしろい！！**

高度な思考と実行力

天候、土地柄、相場、消費者動向等に常に左右され、複合的な視点で刻々と変わる情勢に対応する必要がある。株間ひとつ決めるにも、時期、規模、作業者、販路等の要素が絡んでくる。

大きな伸びしろ

6次化を中心に、**福祉やレジャー産業**としての成長が見込まれ、チャレンジしたい人には魅力的な業界。業務改善の取り組みも遅れている分、普通のビジネスの当たり前を持ち込めば、大きく前進する。



農業は、**衰退**と**成長**の両極端産業

衰退面

後継者不足、外国人労働者（いつか帰国してしまう人？）割合の増加、過疎

成長面

観光農業、道の駅、SNSの隆盛による農業のイメージアップ
新規就農希望者の増加、6次化推進による規制緩和や助成制度

課題：従来農業の原価計算に、人件費が入っていない？
野菜の売値は、原価＋利益でなく、相場で決まる？

ゆうゆう農場の急成長は、人件費を捻出することからスタート。
効率化のための業務改善を！！
正しい労務管理の知識と実践を！！

島田入社時(2015年)	スタッフ5人	年商1200万円
6年後(2021年現在)	スタッフ15～20人	年商5000万円

農業は、日本を救う！はず！！

知ってもらふ、来てもらふ取り組み

観光農業

イチゴ狩り、ぶどう狩り、パパイヤ園、収穫体験
農作業体験の「商品化」

直営店

2021年7月オープン
お客様と直接話をして、買ってもらふ場を。

PR活動（社会とつながっていく）

障がい者の社会参加、課外授業受け入れ
SNS発信、異業種からの人材確保
農業を知ってもらい、親しみを持ってもらう。
➡いい野菜を選んでもらい、いい価格で買ってもらふ。

ご清聴 ありがとうございました